

●ナシヨナリズムの連鎖から離れ、ペスト菌をまかれた村人を歴史家として追跡。歴史と民衆との根本的齟齬。法の壁を叩く人びとの声を伝える、静寂のドキュメント。

ペストと村

——七三一部隊の細菌戦と被害者のトラウマ

立教大学 上田 信 著

……取材のなかで私が伝えたいことは、戦争責任を考
えるときに、国と国との関係ではなく、加害国に生まれ
育った「私」という個人と、被害を受けた中国に生まれ
育った個人との関係が、全ての起点となるのだ、という
私なりの崇山村を介して得た結論である。

……説明を単純化するならば、日本が中国に対して
負っている戦争責任という難問は、日本と中国という軸
と国家と個人という軸から構成される問題群のマトリッ
クスで解かなければならない、ということである。中国
という国と日本という国という枠組みだけでは、それぞ
れのナシヨナリズムが煽られるだけで、問題解決の糸口
すらも熱狂のなかで見失われる。個人という軸を置くこ
とで、はじめて、難問を解く道筋が見えてくる。

難問を解く糸口は、他者に対する共感にある。通り魔
殺人などの理不尽な事件に巻き込まれて殺された被害者
の遺族は、なぜ自分はこうした苦悩に投げ込まれなけれ
ばならなかったのか、と自問することが多い。そのため
に、被害者・遺族は、自分自身を追い詰め、精神の均衡
が崩れてゆく。七三一部隊が開発した細菌兵器は、崇山
村に住む人々の心に傷を負わせた。崇山村に向かい合う
ためには、個々の被害者・遺族の心の傷、トラウマに目
を向けるところから始める必要があるのである。

二〇〇八年正月に『日本経済新聞社』の取材を受け、
崇山村のことを語った。その一節に次のようにある。「崇
山村には細菌戦資料の展示館が開設され、南側の壁一面
には、村民と日本人が一緒に写った約五〇枚の写真パネ
ルが飾られていた。東京・霞ヶ関の東京地裁前などで撮
影された記念写真だった。裁判での日本の支援を記録と
して残すため、村民が設置したという」。このコラムの
最後に、「北京五輪開催を控えた今年、調査結果をまと
めた著書の発行準備を本格化させる」とある。この約束
を果たすため、本書を上梓する。(あとがきより)

目次

- 序章 裁判の結果
 - 第一章 疫病に関する記録と記憶
 - 一 村の悲劇に関する記録
 - 二 村の悲劇に関する記憶
 - 第二章 因果関係の立証
 - 一 細菌兵器の開発と実地使用
 - 二 ペスト流行の歴史
 - 第三章 細菌戦が破壊したもの
 - 一 同姓村の絆
 - 二 姻戚のネットワーク
 - 第四章 被害者・遺族にとつての細菌戦訴訟
 - 一 起訴の動機
 - 二 裁判の意義
 - 終章 敗訴からの出発
 - 一 判決文を読む
 - 二 敗訴後の崇山村

あとがき
参考文献
細菌戦関連年表
東京地方裁判所判決文抜粋

体裁

- ・四六判・並製・カバー
- ・二四四頁

定価

- ・一八九〇円
- (本体一八〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14-9
電話〇三(三八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	一八九〇円
部	

地方出版

上田 信 著
ペストと村

七三一部隊の細菌戦と被害者のトラウマ
ISBN978-4-89489-135-7 C0022 ¥1800E

[お客様控え]

ご氏名
ご住所
お電話

月 日